青山御流
活花手引種前篇 三

三之巻凡例

○此巻ハ専秋の草の種類をもつて次第をなし次さしむる
花状は摸様ニ随て例となせハ聊後の手寄るへし
○此冊末ニ至てハなましひ得たる体はなるを顕し其はなを
さくる図ハ除き品種をあつめ見を補ふ並ニ花形は是
形と増減の趣意とも加く須宜前巻の例を推して察考
あるへし　尚其後ニ於ひては即興の体と水庭はおやと
わりを引し夫ゟ上に床棚附書院卓等は図と無物茶の會尺の
略飾を僅に一二具を記す猶委しくハ別ニ傳意あり

かく斜正のこゝろ形く書てばかり書ハ悪し
巻葉もまんまいの中にまいして入置し水際の
葉の先の書し然るべく組べし
委ハ次にとるべし

檜扇

射干ナリ
烏扇トモ
鳳翼トモ
仙人掌トモ

かく斜正の席をわけ陰陽の
おもむきを生ずる専要なり

ひあふき

圓材ごとくひあふきの根葉ハふし
立てく細しけれもはなありふるもと
めくながくともあしいにこゝろる八悪し
葉斗の長アり
ふきもと

まつふる茎うねりたる
葉とおもきくし
左の圖をうつし

あくらんも改せ〳〵
くき〳〵をうつして生し葉の長短も同じことなり

わく枝のとりなし形く上下まてあまりてとゝき一わく
まきなとハよろしかり深刻あらさいおもくもちと約やかに
えいしきあえて入れて左の図とあるへし

やつて椿留へハ格別座の使なるハとかく
葉ニ茎短くさしてあしゆつに茎
長さハ大葉ハ除ひて小
葉のこと専もちゆ
多しられに

風情寫手
にもよく
よ縁しめ次
次第専しと
よろし

如斯大葉をのぞひて小葉のこ〻をとり。しかして活方に生べし

ヤツテ
八手

魚ニ覆ハ毒ヲ生ト

砥草（トクサ）
木賊ナリ

とくさあくのこゝろ、余りに
風情なし聊かあしらひ趣を
とるべし撲揉ぬあまり

むくげ槿をそへて
活てしめ、えくハ上手あしらひて
流とぞ云へし

蕣
槿花ナリ
藩籬艸トモ
二瓶とも

水葵なれハ一葉一茎に巻葉まて
陰陽がつきるほとハあしらはるるやうにすへし
花も細さにてハ風情悪しきものなれハ
入べし

水葵（ミツアヲヒ）
浮薔ナリ
水葱トモ
雨久花ニ
さわきくやうとも

かくふしまくかたちの葉茎あり
引きほくしの巻葉おさくまし
押てあそひはさつまくりて
半りまくまく茎のくるひ
やまささなおたすめ

子体をほくしよ
きしふくし

此せんとく梢と脚きを定るを葉に随つのをへし
ふつく大葉の数ハ梢の葉るあてに高きおると
見るこてよし まえ左りに如きる葉も二枚まで
同し ふりに葉を扱られて あしく下に二本を左右く

ふりめく生へし
茶の南天にうれるの
詠とゑん
へし

檀特草（タントクサウ）

如此生べし

芭蕉もとんなしそれその意を以推量し

せんのふなでしこ石竹の類ハ花ハ格別之外きらい
水際なるへからす一本つゝまとめ候へハあしく小菊なと
乃ことく二本も三本も差之葉さき揃ふ様ニ
きんとらへてまくし事し左於くへし

檉松　杜若

三春柳トモ

さよつまうとも

さよつまく曲なして風情
おもしろくみえても杜若のそへあしく
上巧なるハ下ハきよき同にあしらふへし余も又同意

右の曲なる枝ハまへつきさきの指ハかろくひかえ枝なるへし
まくらの指ハそれに准く
むつくりと生るへし
杜若ハかくされほれ
添るへし

朝顔（アサカホ）
牽牛花ナリ
狗耳草トモ
毒艸ト有

あさかほは順々に葉あるゆへさもおハ下順に
くるしからぬ苔
葉ちらけかゝんなれハ漸二なく
くずして蔓をつぼまする三つらん
あしらん蔓をつめし葉の勢ひも
よく花ある余情ふかし

かくのことく下艸とそゆるハ
かみをわけて風情あしく是非そへると
なしハちえの手かりをとるへし次の圖と
みへし

をみなへし
きゝやう

ヲミナヘシ
女郎花
敗醤ナリ
女蘿芝

ちやんそほくしゆはらくの
性はあしねらくは良きこれを陰陽と
分けて株をたなはらふとよし次をんを画し

紫苑（シヲン）
志ほと
おにのしこくさ

如此陽葉にて茎を抱へく入申し
花沸夏になるへし

圖のごとくあしの葉南の方へなひきたるはなれ〳〵
悪しまた水などをもちるてくかしまとゝまあひ宜し
かゝ次第けとひきしめて蘆の株をわけて
きなり出すもそおし給へ
へきなし左の事へとるへし

よし

水あふひ

如斯ハ其枝屈曲ありておも
しろき様なれども友がら
ミおのつからさ瓶口にまとひ
かゝりて悪しまた下の瓶の
くさもおふせんまて不し
又障ありてハ如しあし次
次とるべし

杜鵑草（ホトヽギスサウ）

山おくま次
とる

如此瓶口を陰にしてさす何様にても面白く
珍らしいけ花也、下の草を多く入るも
よろすてにいれて

蔓梅もどき

大葉なるもの多く繁葉にこゆるハつかるゝ弊ひ悪し
又葉に多くてなりとも草に垂し まくれる葉太ひ
なしハふらとむきりてよし 跡のさゝくるもの之
尚左の圖とみるへし

秋海棠（シウカイトウ）
斷腸花
瓔珞草 トモ
めく水際の葉を引立
器の口をおほひざる様にすべし
茎を一方ハ秋海棠の性をふくらく
打なびけて入置し時分葉のちひなる
を好むいづれも同じことなり

かく雙方へ亂(みだ)れ處さ
出るは惡しとかく結やうに
一方へばかりなびくやうにし
またいれ上るもおなじく水際
ゐるをいとふべく左の圖と
見るべし

萩（ハキ）
天竺草也
鹿鳴草トモ
芳宜草

おく大輪をえらミうゆれハ秋の情薄し
下枝えだ〱を除き一方をいけ菊をバ多く
抜し出して半開し次の中をも又開し

梅ムメ 梅嫁モトキ

梅賽ハトモ字不祥

おく大ていよ遣ふへし但し梅もどきハ葉など悉くとりざれハ実ちりほれる

もくてあり稀ニ移すへし

おく枝くすり　ひらけては風情淺し一本にして
小菊など添んよりは　いちの枝の指をさゝげ左りへ出させる二の枝を
除き葉を元に添へ一寸ほど引き出し一種にしての事は却て其味深かる
べし　次の圖をみるべし

小梅花（サヽンクワ）
茶梅トモ
海紅トモ

かくのごとくなれとも枝さき下の梢をさけおよそ添ふ遣ひハ却て屈伸の間ニ花情深しこゝに椿沙羅樹木槿抔とも先として若葉大なる物ハ其意をふくみて入べし

是等の器ハ茶ニ對して雅なれとも
寒牡丹なとかく葉薄ニ莖をあしらいにくし又生るも
悪し重瓶の手つるなるまてかゝみきる枝より
次の圖をとるへし

寒杜丹
カンボタン
冬杜丹
右春杜丹ナリ人巧をもつて

時代水際ハなく
添ふかまへならば
葉のさまつく風情深し
枝を前ニ出て見よき者也

小菊 根通りて尽し
沼とらくし

しこ生し水ニ用し
沼とうくし

枇杷（ヒワ） 小菊

上下ともに取つくろひて
入道しこれ取るに朴木猶
こそ枇杷よりて葉も大きなるもあれ
ども枇杷なし

水仙

水仙葉のたくさまさるゝなけれども
めくなからみえてくよつくらへをさるれ
慰し茶も余りよろしくみてくゆふびの趣と
うしなふ故の図てくし

水仙　金盞銀臺花トモ
黄玉花トモ
玉蘂花

かゝみこくよれきくなに茶紫ゝれに
ゆるゆるにきゝ留てなの那ひらく
初巻子くらし

あくのこゝく風情
何程おもしろくとも

みだれてハ悪し 葉のあまり
餘情なし
次の生しどくとくし

水仙花
仙骨トモ

かくつまゆゝ水るを
よしと流か新活考
まあり

いのこ柳よく撓めてしなやかなりゆくを植と
さためおきて筒中に生花しよく添ものをせは
枝をふりあへて小菊とのして挿へし流とうへ盛し

狗柳（イノコヤナギ）
河楊
蒲柳 氏
豕子柳 氏

圖ハよく水際の大枝を
重ねてくらのひ縁をかさねて
添て色し又外いづれも同意なり

なんてん
水仙。

卅。南天一株ハよき枝ふたつ入るゝ
梢ざかりより見ひらきさする枝ゆへのこゝろひろげたれ
ながめ薄し低き枝をとるり根の曲りをみだして
もんすぢへ當し梢の實ハすこし多きすくなきハ二ふさ斗よ
按し余をきるべし水仙ハ葉曲る迄却ていやし次とるべし

如斯ひきくくと水仙の葉を
一方に出し又一方ハ長くまき曲し

南天燭
南天竹
蘭天竹トモ
凡八名有

水仙の葉曲あるもはなれども多く葉ごとに
こまやかあるハ結しいつれも形作をもてなれつゝ
またよし 濡の図とも盛し

此蝋梅より以下ハ悉く専し得する辨而巳と圖し顕也
ゆへに四季の順をいはず悉く花形の大小に随て二瓶
又三瓶も寄せたる風体をとり合さするもあれはたのめに
又昂興の趣に茶人なとの好む様繪あしらひ棚附書院
杯趣をいさゝか圖し並へあり

連翹
いたちぐさ
いたちはぜ とも
陸英
接骨木モ
蒲公英
ふぢな
つゞみぐさ とも
きんせんくわ
別名奥ニ悉し

梨花（ナシ）
快栗氏
櫻草（サクラサウ）

あやめ
紫羅襴花
溪蓀 正
大手まり
繡毬花 正
雪毬花

なつむめ
藤天蓼
薊花
アサミ

夏椿（ナツツバキ）
沙羅雙樹
堅固樹 仝

撫子（ナデシコ） とこなつとも
瞿麥 洛陽花
石竹 南天竺艸 仝

雞頭花ケイトウケ
とさか草とも
雞冠花氏

つへ
槖吾 山ふき とも
杜衡氏

びやうやなぎ 美容柳

金絲桃ナリ

長春花（チヤウシユン） 日季茎

薔薇ノ類ナリ

仙蓼（センリヤウ）
珊瑚なり

猿猴杉（エンカフスギ）

山茱萸（サンシユユ）
さんくみよ

烏兜（とりかぶと）毒艸ナリ
烏頭ナリ 雙鸞菊
海老根草（えびね）
他偷草ナリ
鈴根艸

水引艸（みつひきさう）
海根ナリ

鴨跖草也
碧蟬花（つゆくさ）𪜈

ふとゐ
小刀留
壓留
秋現花也
薔薇ノ一種ナリ

河骨（かうほね）　鎖留

杜若　蟹（かに）留

図のごとく根をくさりにて
いくつもつなぎむすひつく
り浮き花を入べし
蟹とめハつめ出てかゆる
も有又茎をはさみて
とむるも有
手軽く小
准べし

紫蘭（しらん）
白及草
連及トモ

水仙

砂利とあるハ小砂利
を多くもりて根
をしめるべし
右とめハ常和遣たる
中石を五つ六つよせ
て根を押ゆべし

鋏留ハあしへよする
趣きん考とるべし

菊（キク）

みくらくよもきさ とも
あきくらう

軸前の花
んねさ

芭蕉（ハシヤウ）
甘蕉 仝
俗うとんけとも
繪前の
花形
に㝍有

紅黄草（カウワウサウ）
藤菊トモ

卓下花
ム得有

木蓮花（モクレンゲ）
木蘭

サンカク井
三角藺
茳莖十リ
七島氏